

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
東京臨海広域防災公園	（指定管理者名）西武造園株式会社 （団体の概要）西武鉄道(株)をはじめとする様々な企業が属する「西武グループ企業」の一員であり、当社グループで関東圏を中心に全国各地にある83箇所566施設(令和5年3月末現在)の都市公園等の管理運営に携わっている。
指定期間	

2 施設名	3 収支(単位:千円)			
東京臨海広域防災公園		令和4年度	令和3年度	公園別支出額
		金額	金額	東京臨海広域防災公園：令和4年度→57,954 令和3年度→57,609
	項目			
	収入計	57,954	57,609	
	内 指定管理料	57,954	57,609	
	内 利用料金	0	0	
支出計	57,954	57,609		
収支差	0	0		

4 管理運営の概要

令和3年度と比較し、新型コロナウイルスの感染症の流行が収束に向かい、大型持ち込みイベントや公園主催イベントもかなり実施できた1年であった。公園を取り巻く状況が日々変化する中で、令和4年度は「地域や関係機関との連携」に重きを置き、「コミュニティガーデン講座」の実施による都民の域を超えた参加者の募集を行った。また、「ふれあい動物園」や「ぼうさいモーターショー」実施による関係機関との連携強化を行った。「利用者の利便性向上」についても重視し、緊急対応等経費やベンチ・野外卓更新経費を用いてトイレ等の施設更新を行うことで、快適な園地空間の創出に寄与した。開園10年以上が経過し、徐々に劣化する施設（構造物）に対して、適切な更新を行うことで、利用者にとって安全・安心な空間を提供することができた。

また、防災公園の特性を活かし、国営公園側と連携して毎月定例訓練を実施するだけでなく、「プラスα訓練」と題した訓練も毎月行い、熱中症やハチ刺され時の対応等を幅広く学び、スタッフ一同、万一の際に冷静かつ迅速に対応できる能力を身に付けた。2月には有明テニスの森公園と共同で一時的滞在施設設置訓練を実施し、近隣公園との連携強化も図った。

5 管理状況（維持管理）

【地域のコミュニティの場となるガーデンの創出】

- ・都立公園と国営公園の境界部に令和2年度に造成した国営公園と都立公園境界部に位置する、ナチュラルスティックガーデンを活用した「コミュニティガーデン講座」を開催することにより、国営公園との連携強化、都民の域を超えた協働を図ることができた。
- ・「NHK趣味の園芸 金子先生のヒマワリ教室」では、普段土にあまり触れる機会がない近隣の子どもの参加者も多かったため、土に触れる楽しさを知るきっかけづくりにも寄与できた。また、阪神淡路大震災で亡くなってしまった女の子の形見である「はるかのひまわり」の種を参加者に植えていただき、震災についても考えていただいた。

【利用者の利便性向上】

- ・緊急対応等経費やベンチ・野外卓更新経費を用いて、老朽化したトイレやベンチ・野外卓の更新を行い、快適な園地空間の創出に寄与できた。

6 利用者アンケート結果

実施方法：公園内で調査票を配布・回収					施設ごとの分析・評価
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
東京臨海広域防災公園	4.7	4.5	4.6	4.5	4.7

利用者満足度は昨年度より0.1上がり、4.7となり、9割以上の方に概ね満足していただける結果となった。満足度の評価項目の中では満足度が高い順に「職員の対応の良さ」「施設の清潔さ（トイレなど）」が挙げられた。これらは、スタッフの丁寧な接客や日々の細やかな清掃作業等の成果だと考えられる。

7 入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
東京臨海広域防災公園	180,773	コロナ禍が収束に向かいつつあったため、全体的に人の出が多くなっているものと考えられる。また、様々な規制が緩和されたことで当公園においても大型イベントを実施できるようになり、徐々にコロナ前の公園の姿に戻りつつあった。さらに、当公園のみならず、隣接する東京ビッグサイトにおいても大型イベント等が再開されることで、関係者が公園で休息等する姿も見られ、当公園の入園者数に大きく影響した。
合計	180,773	

都立東京臨海広域防災公園

＜東京臨海広域防災公園の基本的な考え方＞

- ①“都市の魅力を高める”公園づくり
- ②“高度防災都市を支える”公園づくり
- ③“生命を育む環境を次世代に継承する”公園づくり
- ④“豊かな生活の核となる”公園づくり

⇒魅力的な公園づくりを推進！



1. 地域の枠を超えた連携

●都立公園と国営公園境界部の大規模花壇「ナチュラルスティックガーデン」を活かした幅広い連携！

趣味の園芸に出演しているガーデンデザイナー大滝暢子氏を講師に招き、花壇の手入れに関する知識を受講生へレクチャーする講座を開催。満員となり、募集を締め切っても応募者が来るほどの人気ぶりとなった。公園の花壇づくりを通して、花や四季に触れる楽しさや、参加者同士のコミュニケーションを育むプログラムとし、公園の魅力アップにつなげた。その結果、都民の域を超え、近隣県からも参加者を募ることができた。



2. 関係機関との連携

●関係機関と連携した「ぼうさいモーターショー」を3年ぶりに実施！

災害時に活躍する車両に触れることで防災意識を高めてもらうイベントを3年ぶりに実施した。警察、消防、米海軍等と連携し、防災関係車両を展示して災害対応に従事する隊員、職員達と接することで防災に興味を持っていただけました。



都立東京臨海広域防災公園

3. 防災意識の向上

●毎月訓練を実施し、スタッフの意識を向上!

毎月定例訓練を実施するだけでなく、「プラスα訓練」と題した訓練も毎月行い、熱中症やハチ刺され時の対応等を幅広く学び、スタッフ一同、万一の際に冷静かつ迅速に対応できる能力を身に付けた。2月には有明テニスの森公園と共同で一時的滞在施設設置訓練を実施し、近隣公園との連携強化も図った。



熱中症の対応訓練の様子



IPトランシーバーを用いた
通報訓練の様子



一時滞在施設設置訓練の様子

4. 利用者の利便性向上

●施設更新を実施し、安全性・快適性を向上!

緊急対応等経費やベンチ・野卓更新経費を用いて、トイレ等の施設更新を行うことで、快適な園地空間の創出に寄与した。開園10年以上が経過し、徐々に劣化する施設（構造物）に対して、計画的に適切な更新を行うことで、利用者にとって安全・安心な空間を提供することができた。



トイレの音声ガイダンスを更新



スツール更新前



スツール更新後

5. 接客力の向上

●国営側と一体感を持った接客の実施

国営公園側スタッフと一体となり、国営・都立両施設トータルでの接客向上を図った。1月には、国営側も含めた全スタッフ対象の接客研修を実施した。接客研修ではロールプレイングを実施し、実際の接客に活かせる内容を行った。また、訪日外国人を想定した、おもてなし研修も実施し、外国人への対応についてもシュミレーションを行った。



接客研修の様子